

佐々木享没後5周年記念シンポジウムと出版事業への後援のお願い

佐々木享先生追悼集編集委員会 横山悦生・依田有弘  
須藤敏昭・沼口博

2016年5月に佐々木享先生の1周忌に追悼集を大空社より出版し、故人の思い出を語る会を名古屋大学にて開催しました。あれから数年が経ちました。その取り組みはとても有意義なものであったと思います。その際に佐々木家より頂いた寄付がありましたが、これを佐々木享先生が命をかけて取り組んできた技術・職業教育学研究の進展に使うことを考えております。2019年10月に大空社より発行予定のKathleen Thelen 著(横山悦生・石原俊時監訳)『制度はいかに進化したか』(How Institutions Evolve –The Political Economy of Skills in Germany, Britain, the United States, and Japan)の翻訳権料に使用したいと考えております。本書は、タイトルが示しているように、4ヶ国における技能形成の歴史的展開についてドイツを中心におきつつ、その比較を試みた本で、世界的に注目され、数カ国語で翻訳されていますが、日本語ではまだ翻訳はされていません。最初は名古屋大学教育発達科学研究科大学院の技術教育学ゼミで翻訳にとりかかりましたが、横山・沼口の大型科研の共同研究者でもある石原俊時氏(経済史)にも監訳に加わっていただき、高橋三貴子さんにもメンバーにも加わっていただいて翻訳を完成させたものです。この本は、今後の技術・職業教育研究にとっても大きな意義を有するものと考えています。

とはいえ、学術専門書の出版が困難な状況の中でこの翻訳を出版するためにはとても大きな困難を伴います。そこで、佐々木享没後5周年を記念とするシンポジウムを企画し、この取り組みを通じて多くの方から出版を成功させるためにクラウド・ファンディング方式によるカンパを集めたいと考えております。カンパは一口3000円で一口について本書(予定本体価格3000円、A5版380頁)1冊を贈呈させていただきます。

なお、2019年11月23日に開催するシンポジウムでは、第1部は、この翻訳書の学問的な位置づけ、その成果と課題などについて、監訳者の一人でもある石原俊時氏(東京大学経済学部)と穴見明氏(大東文化大学法学部)から問題提起をしていただきます。第2部では、「佐々木享先生と民間研究運動」と題して、技術教育研究会とのかかわりについて(依田有弘氏)、産業遺産研究とのか

かわりについて（天野武弘氏）、報告していただきます。第2部を受けて第3部（懇親会）では、佐々木享先生の多様な民間研究運動とのかかわりについて、参加者から思い出を語っていただくような場にしたいと考えております。

日時 2019年11月23日 午後1時から午後7時まで

場所 第1部と第2部 名古屋大学教育学部大講義室（本館2階）午後1時～  
第3部 南部生協食堂（教育学部の正面玄関の向かい側）午後5時～

第1部 「How Institutions Evolve」の学問的意義と課題

開会挨拶 司会 横山悦生（名古屋大学）

報告1 経済史の立場から 石原俊時氏（東京大学）

報告2 政治学の立場から 穴見明氏（大東文化大学）

第2部 「佐々木享先生と民間研究運動」

司会 沼口博（大東文化大学）

報告1 産業遺産研究運動とのかかわり 天野武弘氏（中部産業遺産研究会・産業考古学会）

報告2 技術教育研究会とのかかわり 依田有弘（元千葉大学）

第3部 「佐々木享先生の思い出を語る」

司会 横山悦生（名古屋大学）

以上の取り組みを後援していただく団体として、以下の団体から後援を受けたいと考えております。財政的な支援を伴うものではありません。一人でも多くの方に呼びかけていただきたいという趣旨です。

後援の件、よろしく願いできれば幸いです。

後援団体（案） 産業教育学会、技術教育研究会、中部産業遺産研究会、産業考古学会、子どもの遊びと手の労働研究会、産業教育研究連盟、他